SPARX

SPARX

販売用資料
2018年12月

特化型

スパークス・韓国株ファンド
愛称:韓国厳選投資

追加型投信／海外／株式

●当ファンドは、主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、海外の株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産に投資しますので為替の変動により、基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。
●当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則　信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては、35%を上限として運用を行います。

お申込みの際は、「投資信託説明書（交付目論見書）」を必ずご覧ください。

■投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お申込みは

東海東京証券

商 号 等：東海東京証券株式会社
　　金融商品取引業者　東海財務局長（金商）第140号
加入協会：日本証券業協会
　　一般社団法人金融先物取引業協会
　　一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■設定、運用は

SPARX スパークス・アセット・マネジメント株式会社

商 号 等：スパークス・アセット・マネジメント株式会社
　　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第346号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会
　　一般社団法人日本投資顧問業協会
　　一般社団法人第二種金融商品取引業協会

韓国の概要

- 公式の国名は「大韓民国」。人口5,145万人*、各目GDPは1.54兆米ドル*（１人当たりGDP：29,938米ドル*）で世界で12番目につけています。
- 世界第6位の輸出国で、電気・電子機器、造船・鉄鋼などは世界トップクラスの主要産業となっており、小さな国土でありながら、持続的な成長を続けています。

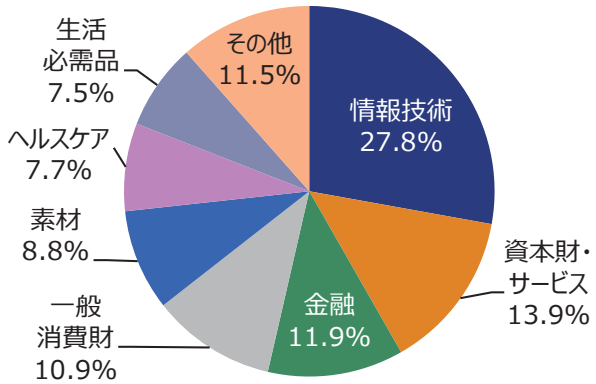
ソウル
羽田空港から飛行機で約2時間の距離にある韓国の首都。明洞(ミョンドン)、東大門(トンデムン)、江南(カンナム)など多くの観光地がある。

平昌(ピョンチャン)
2018年平昌冬季オリンピック・パラリンピックの開催地。平均標高は約700mで、冬季には多くのスキー客が訪れる。

済州(チェジュ)
火山の噴火により生まれた韓国最大の島。リゾート地としても非常に有名で、国内外から多くの観光客が訪れる。

釜山(プサン)
韓国第2の都市。釜山港は世界でもトップクラスのコンテナ貨物におけるハブ港湾。「釜山港」がタイトルに入る歌謡曲も多数あるほど有名。

韓国株式市場の業種別比率
2018年9月現在



韓国ウォン／円レートの推移
（2013年9月30日～2018年9月28日）

＊　2017年時点（IMF統計）
出所：　各種資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

当ファンドのポイント

ポイント①

韓国の構造的変化を捉え、将来の成長機会に対応できる優良な韓国企業に投資

■韓国の代表的な株価指数であるKOSPI(韓国総合株価指数)＊は2017年、7年近く続いたボックスレンジから抜け出しました。
■韓国株式は地政学的リスクや経営の透明性に対する懸念などから企業業績に対して割安な状況が続いていましたが、2018年の南北首脳会談や財閥改革など、現在韓国は歴史的な転換点にあると考えられます。

ポイント②

優れた実績を誇る、スパークスの「少数の投資銘柄群に絞り込んだ厳選投資」による運用

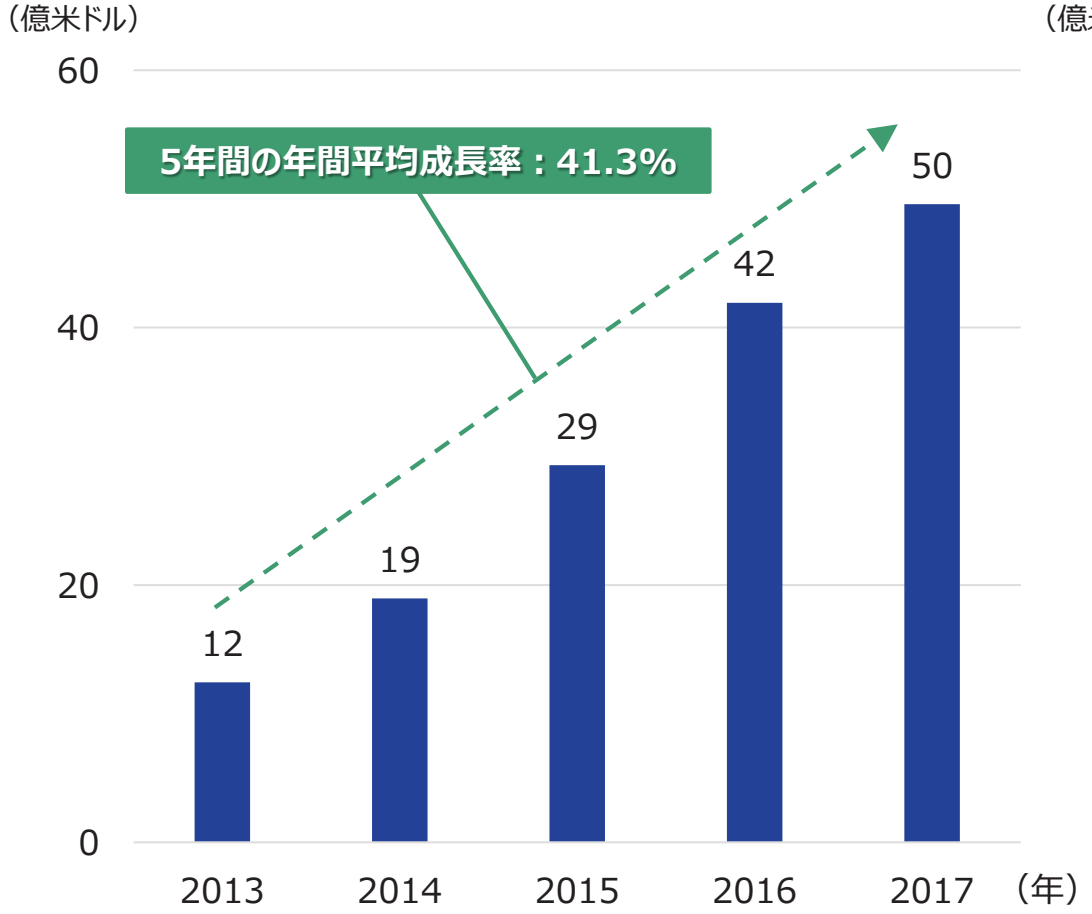
■スパークスの「少数の投資銘柄群に絞り込んだ厳選投資」による運用は、長期にわたり高いリターンをあげてきました。
■ボトムアップ・リサーチによる個別銘柄調査に基づき、魅力的なビジネスと卓越した経営陣を併せ持つ企業で、企業価値に対して割安と考えられる銘柄を厳選して集中的に投資を行い長期保有いたします。

＊　KOSPI（韓国総合株価指数）：韓国取引所の全上場銘柄からなる時価総額加重平均指数をいいます。1980年1月4日を基準日とし、その日の時価総額を100として算出されます。
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

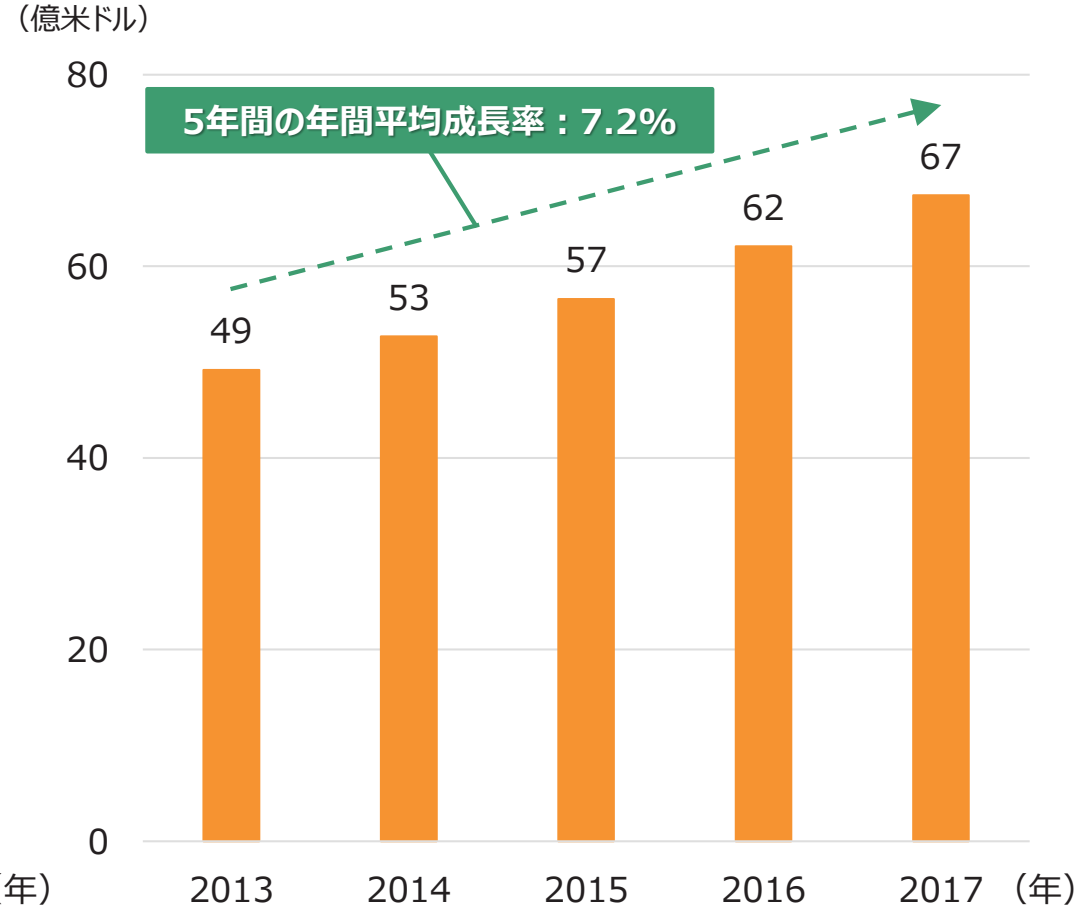
ポイント①
世界に広がる韓国の産業

- 韓国には電子機器などの主要産業以外にも、化粧品やコンテンツビジネス*、ヘルスケアなど独自の競争力を持った産業が存在し、それらの企業は世界的な競争力を持っています。

韓国の年間化粧品輸出額
2013年～2017年



韓国の年間コンテンツ輸出額
2013年～2017年

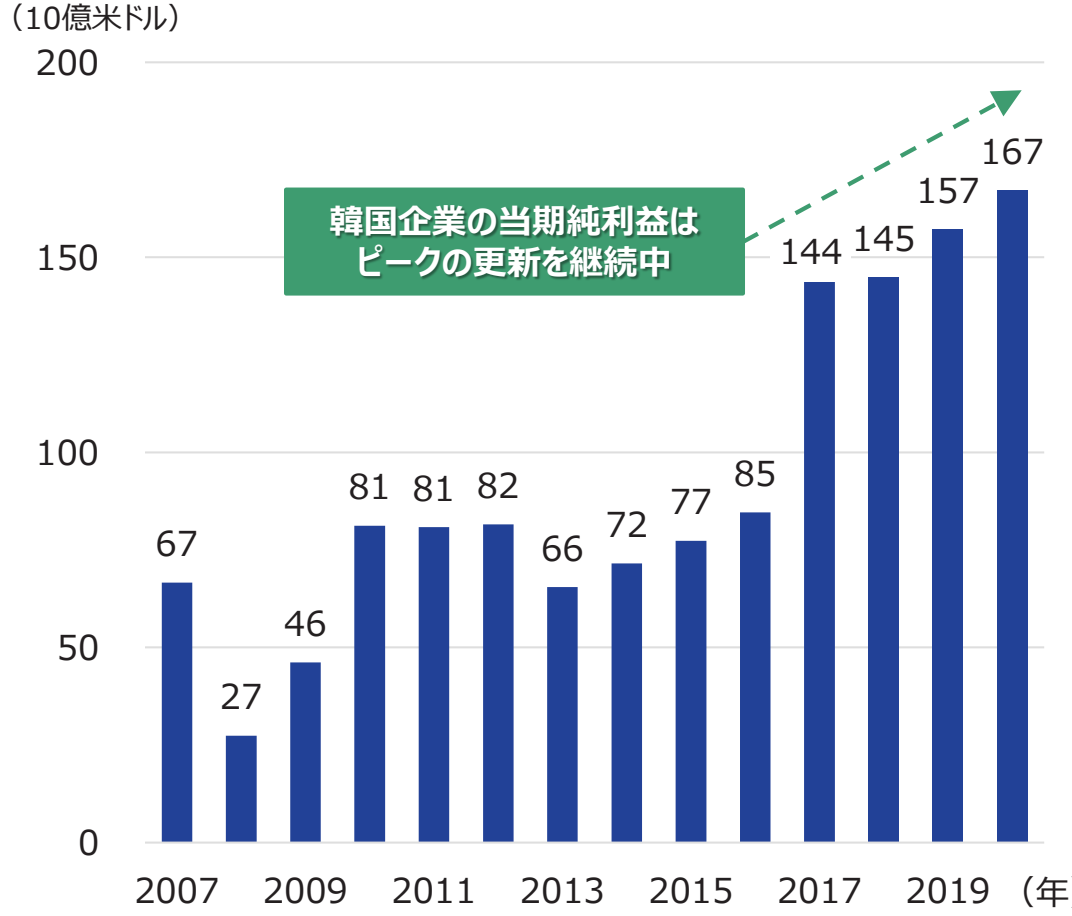


＊ コンテンツビジネス：出版、漫画、音楽、ゲーム、映画、アニメ、放送、広告、キャラクター、知識情報、コンテンツソリューションなど。
出所： 各種資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

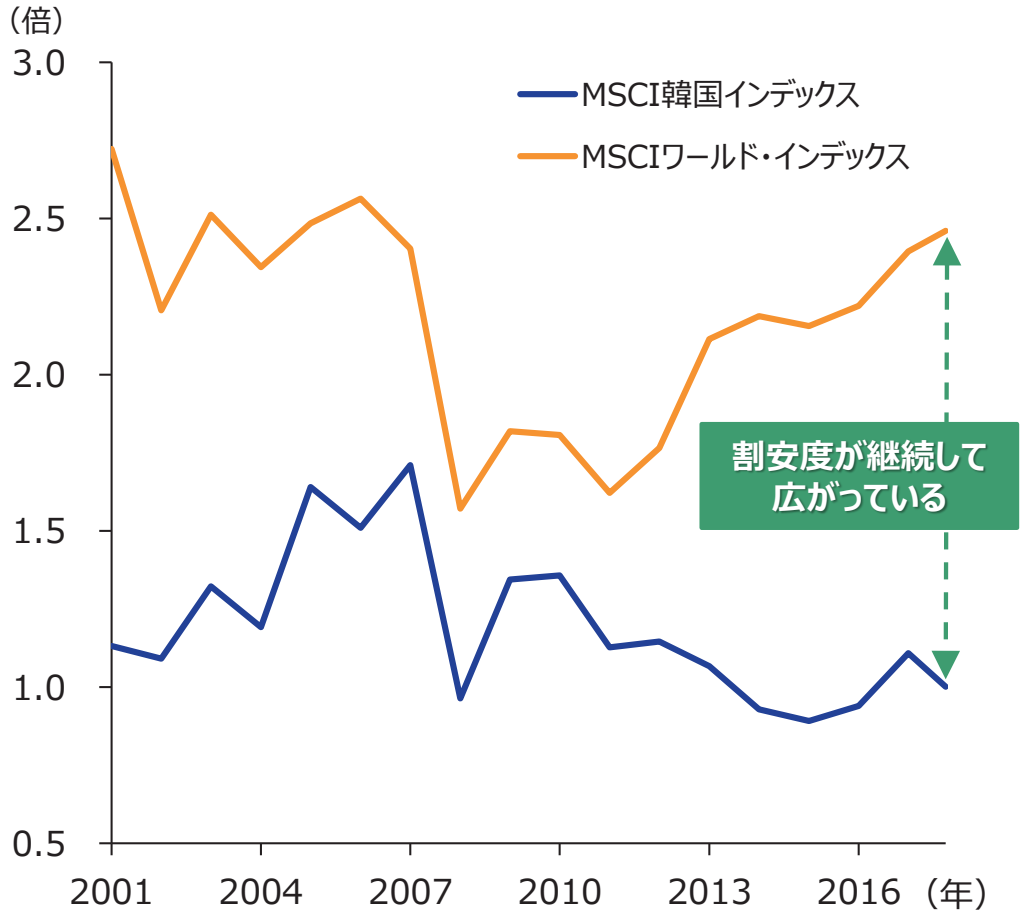
ポイント①
高収益にもかかわらず割安な韓国株式

- 韓国企業の当期純利益はピークの更新を続けておりますが、割安な水準に放置されています。
- 割安度のギャップは継続して広がっており、先進国対比だけでなく、新興国対比でも非常に割安な状況にあります。

韓国企業の当期純利益の推移
2007年～2020年（2018年以降は予想値）



主要国と韓国のPBR比較
2001年～2018年（2018年は9月末現在）

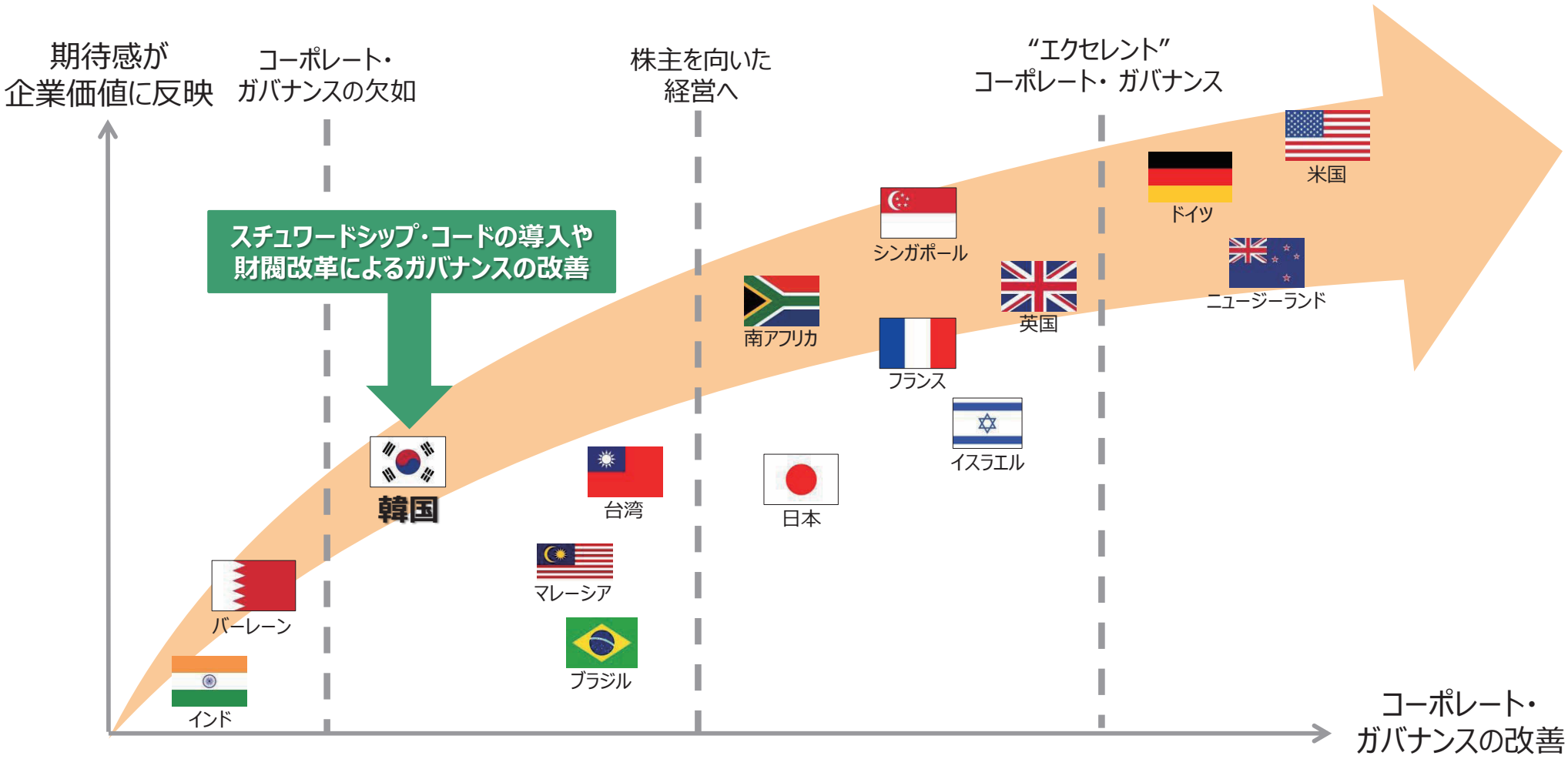


出所： 各種資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成（予想値は2018年7月時点）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

ポイント①
「韓国ディスカウント」の解消要因：コーポレート・ガバナンスの改善

- コーポレート・ガバナンス＊は韓国企業の慢性的な問題でした。
- 韓国政府は国民年金のスチュワードシップ・コードの導入など、経済成長を妨げるガバナンス問題を解消する改革に着手しています。

各国のガバナンスとバリュエーションの比較

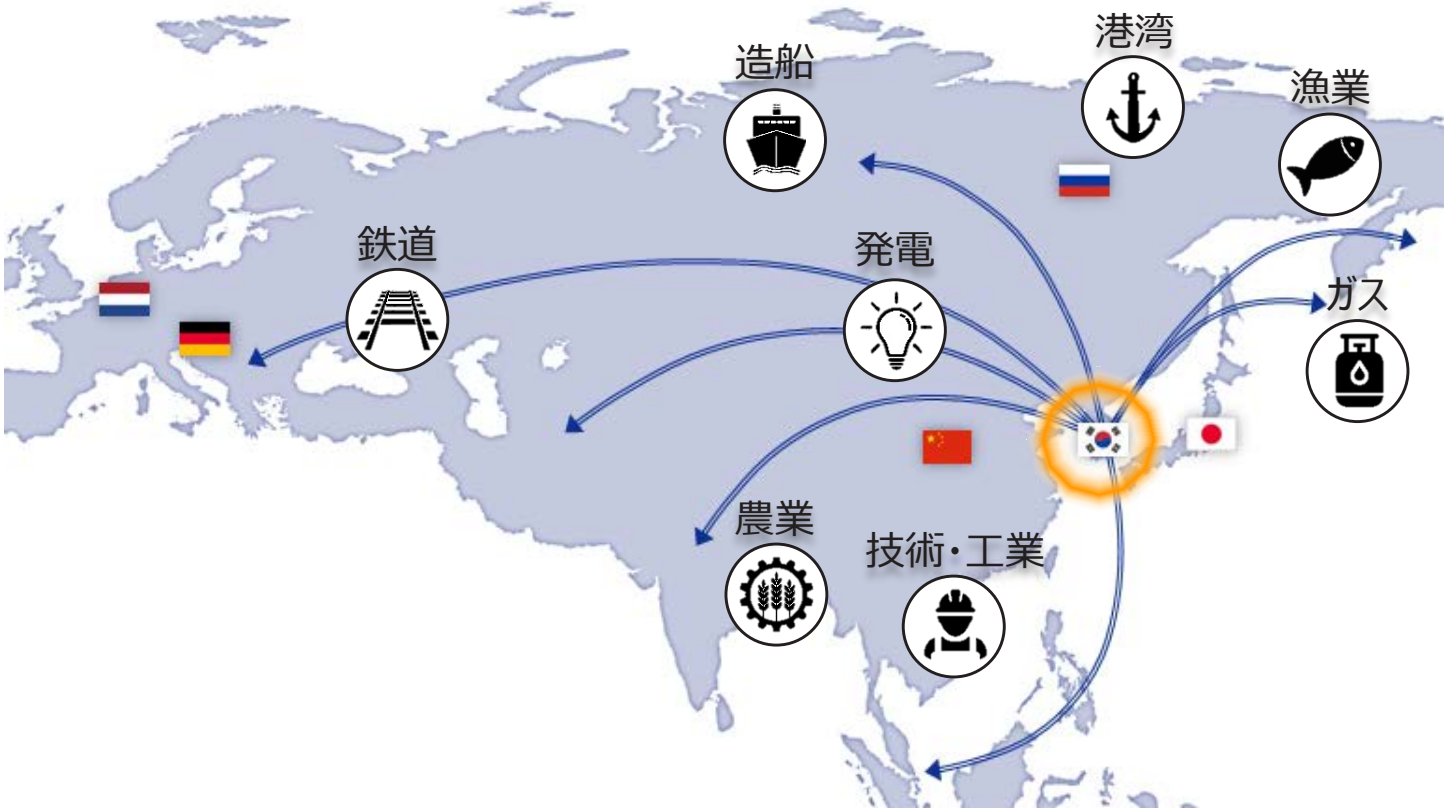


＊ コーポレート・ガバナンス：「会社側は企業価値の向上に努め、株主に対して最大限の利益の還元をすることを目的とすべき」という考え方のもと、企業経営を監視する仕組み。
※ 上記は当ファンドの投資戦略の理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。
出所： Corruption, Governance and Security: Challenges for the Rich Countries and the World - by Daniel Kaufmann,スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

ポイント①
「韓国ディスカウント」の解消要因：ユーラシア大陸一帯での交易拡大

- 2018年にはおよそ11年ぶりの南北首脳会談や史上初の米朝首脳会談が行われるなど、韓国の地政学的リスクは緩和傾向にあります。
- 北朝鮮との関係改善により陸路が使用可能になると、韓国の陸上貿易圏がユーラシア大陸まで広がることが期待されます。

ユーラシア大陸の交易拡大イメージ



現在、韓国・北朝鮮間の陸路は実質凍結されており、
陸路を通じた経済活動が制限されている

北朝鮮の陸路を含む経済交流の活性化により、
朝鮮半島の枠を超えて、ユーラシア大陸との
経済圏の恩恵を受けることが期待できる

※　上記は当ファンドの投資戦略の理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。
出所：　各種資料をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

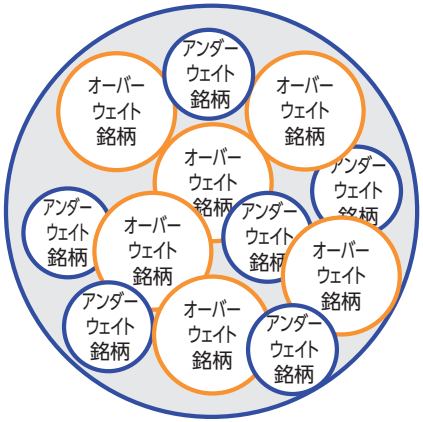
ポイント②
「少数の投資銘柄群に絞り込んだ厳選投資」とは

- 当ファンドは、過度な分散はせず、徹底的に調査をした確信度の高い銘柄＊に厳選して投資します。

一般的なアクティブ・ファンド

分散投資

ベンチマークを意識しながら多数の銘柄に投資

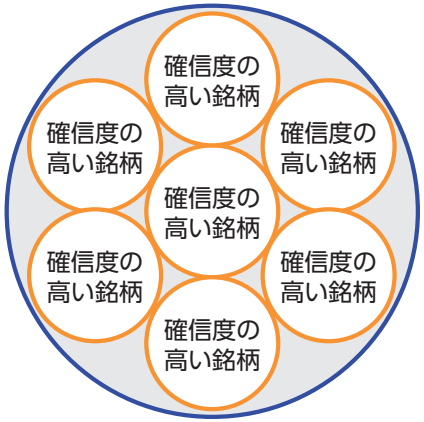


市場平均と大きく変わらないリターン特性になる傾向がある

当ファンド

厳選投資

確信度の高い銘柄に厳選して投資



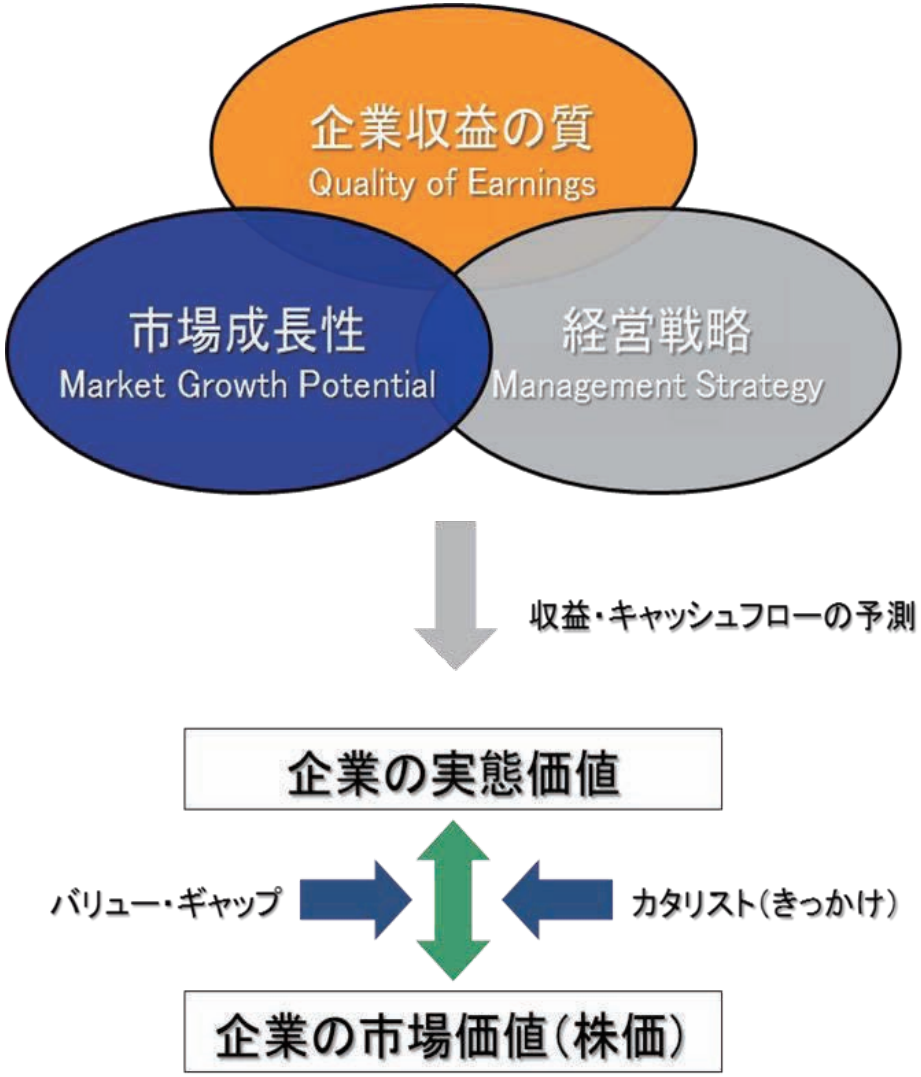
市場平均と異なるリターン特性になる傾向がある

厳選投資は、運用者の能力が大きく問われます。
企業調査能力を最大限に発揮し、“厳選投資”のポートフォリオを構築します。

＊　確信度の高い銘柄：　ボトムアップ・リサーチの結果、中長期的にリターンを獲得できる可能性が高いと判断した銘柄群。
※　上記は当ファンドの投資戦略の理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。
出所：　スパークス・アセット・マネジメント
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

ポイント②
魅力的なビジネスと卓越した経営陣を併せ持つ企業に投資

▸ 創業来培ってきた企業調査の着眼点をもとに、魅力的なビジネスと卓越した経営陣を併せ持つ企業の実態価値を算出します。



企業調査の着眼点

企業収益の質

- ビジネスモデルがシンプルで理解しやすいこと
- 短期的な景気動向に左右されずに安定して
  キャッシュフローを生み出していること
- 平均以上のＲＯＥ（株主資本利益率）と
  安定した利益成長
- 参入障壁が高く、本質的に安全なビジネス
- 負債が少なくバランス・シートが健全

市場成長性

- グローバルな事業展開

経営戦略

- 有能かつ株主利益を理解した経営陣

忘れてはならない投資規律

■ **短期的な収益にまどわされず、**
長期的な収益を得るための“冷静さ”と“忍耐力”を持つ。

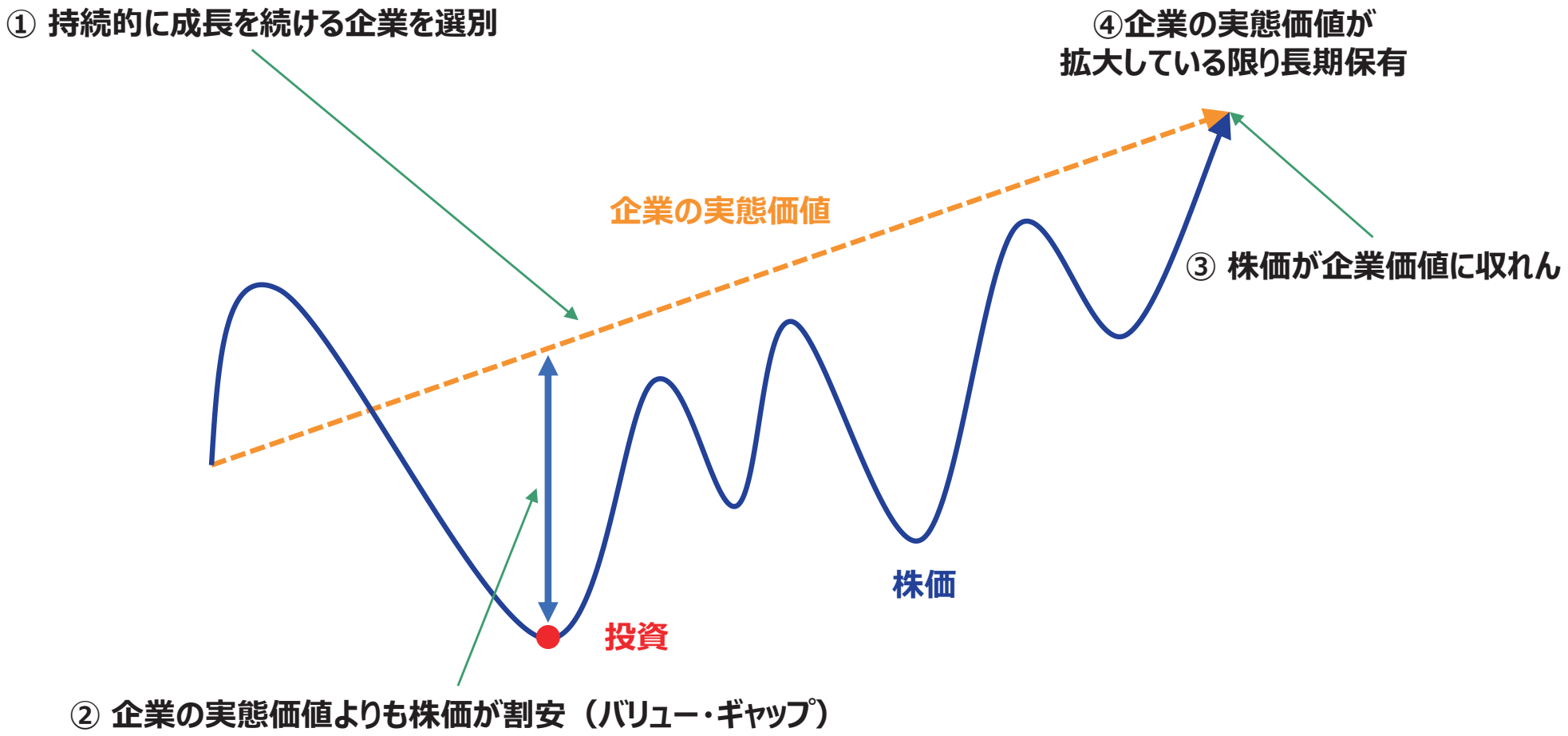
■ **緻密な企業分析と“深い洞察力”に基づいて、**
“真に”魅力的なビジネスを見極める。

■ **熟知している分野をしっかり定義し、**
わからないことには決して投資しない。

出所： スパークス・アセット・マネジメント
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

ポイント②
実態価値に対して割安な銘柄に長期で投資

- 企業の実態価値に対して割安な価格で投資し、長期保有します。



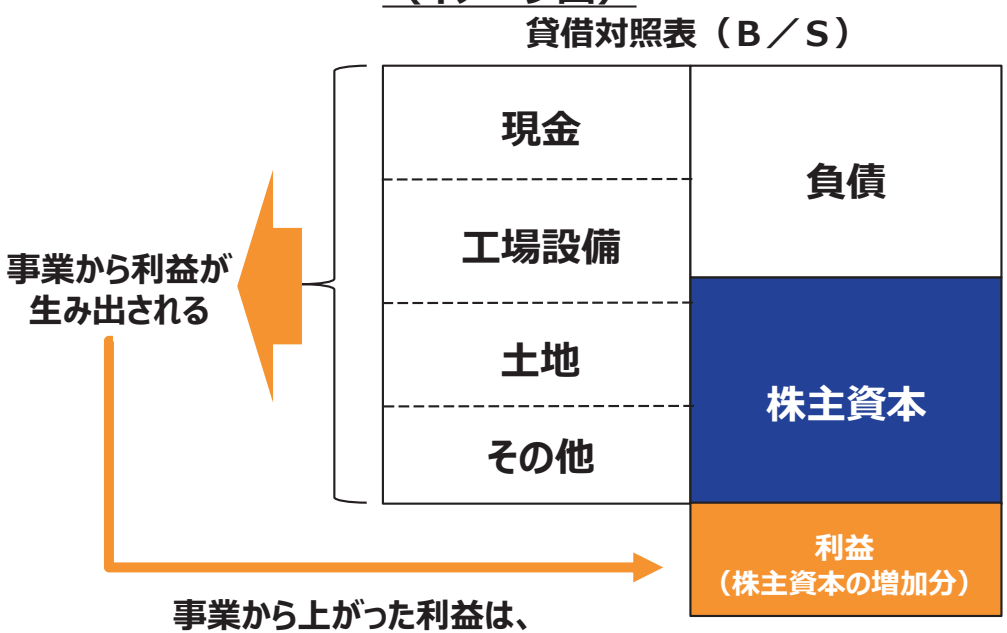
株価が企業の実態価値を大きく上回った場合やビジネスモデルが根底から崩れたと判断した場合は売却する可能性があります。

※　上記は当ファンドの投資戦略の理解を深めていただくためのイメージ図です。全てのケースに当てはまるものではなく、当ファンドの将来の結果をお約束するものではありません。
出所：　スパークス・アセット・マネジメント
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

ポイント②
資本の積み上がりに投資

- 魅力的なビジネスとは、長期的・持続的に成長し、株主資本を使って超過利潤を創出するビジネスです。
- これを評価する一つの指標としてROE（株主資本利益率）が挙げられます。ROEは株主資本に対する利益の割合です。
- ROEが高水準で安定的に推移する企業の株主資本は積み上がっていくと考えています。

貸借対照表（B／S）における利益と株主資本の関係（イメージ図）



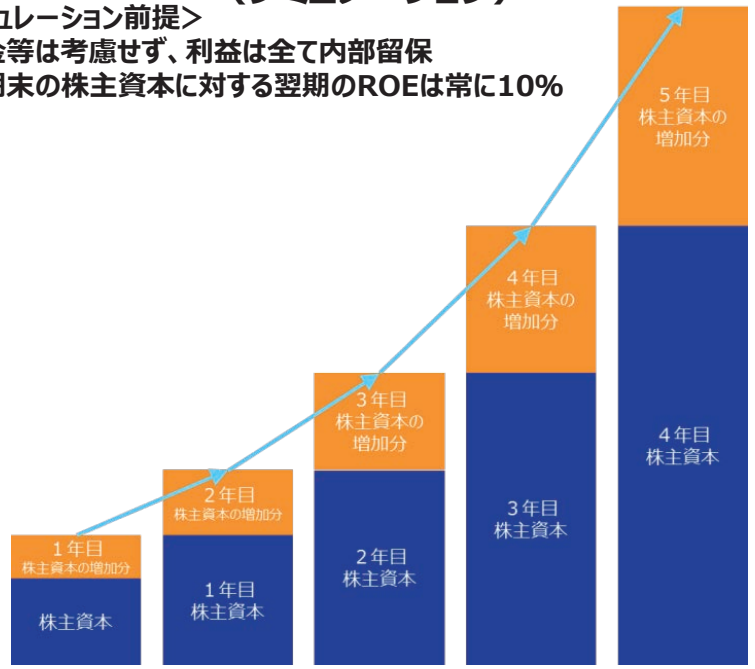
事業から上がった利益は、
毎年、株主の持分である資本に積み上がる

$$\frac{\text{利益}}{\text{株主資本}} = \text{ROE}$$

（株主資本利益率）

ROE10%を維持した場合の株主資本の推移（シミュレーション）

<シミュレーション前提>
①税金等は考慮せず、利益は全て内部留保
②前期末の株主資本に対する翌期のROEは常に10%



ROE10%を維持　（億円）

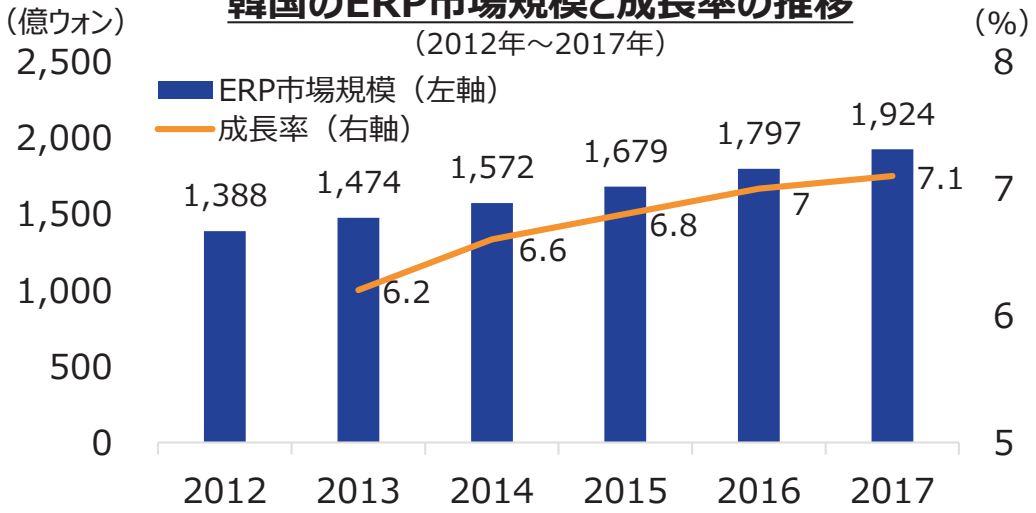
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
株主資本の増加分	10.0	11.0	12.1	13.3	14.6
株主資本	100.0	110.0	121.0	133.1	146.4
株主資本増加率（対1年目）	–	10%	21%	33%	46%

※　上記はイメージ図であり、全てのケースに当てはまるものではなく、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
※　上図は利益を全て内部留保したと仮定して計算しています。
※　上記はあくまでもシミュレーションによるイメージであり、将来を保証、示唆するものではありません。
出所：　スパークス・アセット・マネジメント
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

投資対象銘柄のご紹介①
ダゾン・ビズオン（情報技術） DOUZONE BIZON CO., LTD.

株価の推移
（2013年9月末日～2018年9月末日）

韓国のERP市場規模と成長率の推移
（2012年～2017年）



投資のポイント

【企業概要】

- 中小企業向けの会計プログラム、ERP（企業資産計画）を開発・展開しているソフトウェアメーカーで、中小企業向けではトップシェアを持つ
- クラウドサービス、グループウェア、電子税金計算書＊など企業インフラに必要なITソリューションを提供

＊ 電子税金計算書：事業者が電子的方法により税金計算書を発行し、国税庁に転送する制度。費用節減、透明性強化を目的として2010年から実施されている。

【同社の魅力】

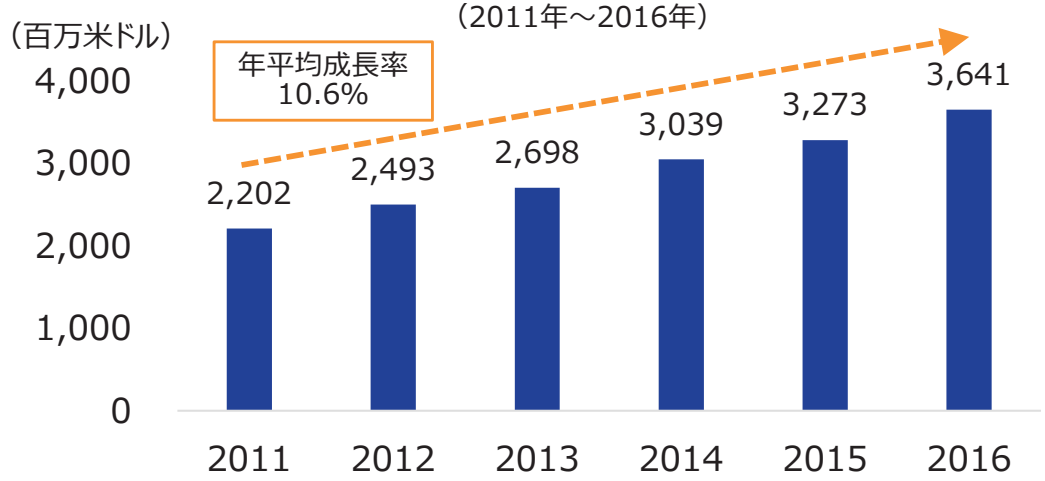
1．同社の会計プログラムはほとんどの中小企業・会計事務所で使われており、同社の会計プログラムに慣れていることが採用時の条件となる企業も多く、非常に高い参入障壁を持つ
2．ソフトウェアビジネスは固定費が少なく、企業は毎月使用料を払うため、独占的な地位を持つ同社は資金流入が非常に安定している
3．企業向け会計プログラム及びERP市場は成長しているため、トップシェアを持つ同社はその恩恵を受け、持続的な売上成長が期待される
4．蓄積されたビッグ・データを活用したビジネスの拡張を図る

※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、当ファンドへの実質的な組入れを保証もしくは示唆するものではありません。
※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。
※ 過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。
出所： 会社資料等をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

投資対象銘柄のご紹介②
メディトクス（ヘルスケア） Medy-Tox Inc.

株価の推移
（2013年9月末日～2018年9月末日）

ボトックス製品の世界の市場規模
（2011年～2016年）



投資のポイント

【企業概要】

- ボツリヌス・トキシン（ボトックス＊）製品などを製造する美容治療医療品メーカー
  ＊ ボトックス：ボツリヌス菌から抽出されたたんぱく質の一種。アセチルコリンの分泌を抑えることで筋肉の動きを止めてしわを軽減したり、発汗を抑えたりすることができる。
- 世界で初めて液体タイプのボトックス製品を開発、その優れた商品性が認められ、2013年に世界最大手の米アラガン社と3億6千万ドル規模のライセンス契約を締結

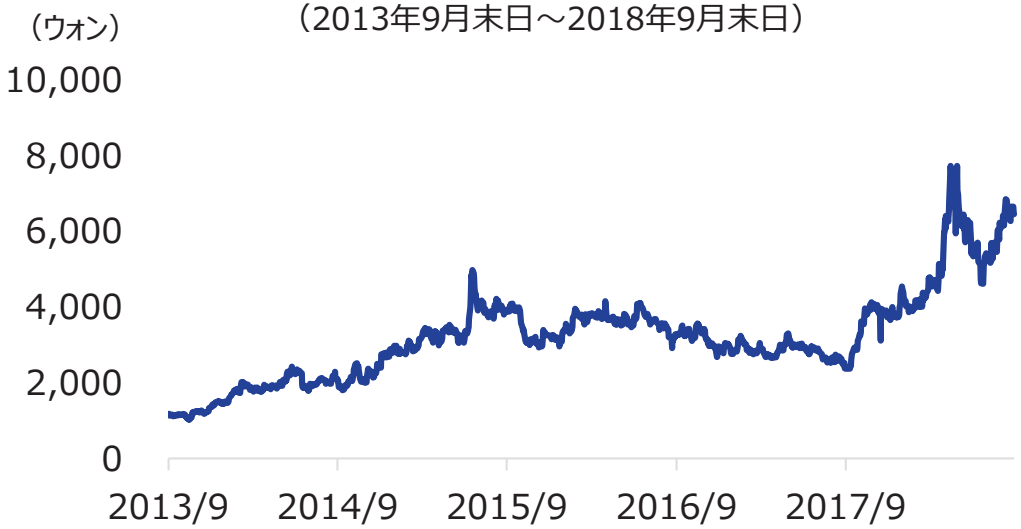
【同社の魅力】

1．韓国シェア1位、世界シェア4位のメーカーとして、海外市場で意味のあるシェアを占めている
2．グローバル美容市場の成長とともに、ボトックス製品の需要も増加
3．同社は米アラガン社が80%シェアを占める中国市場への参入を計画、2019年の上半期にも販売承認を得る見込み

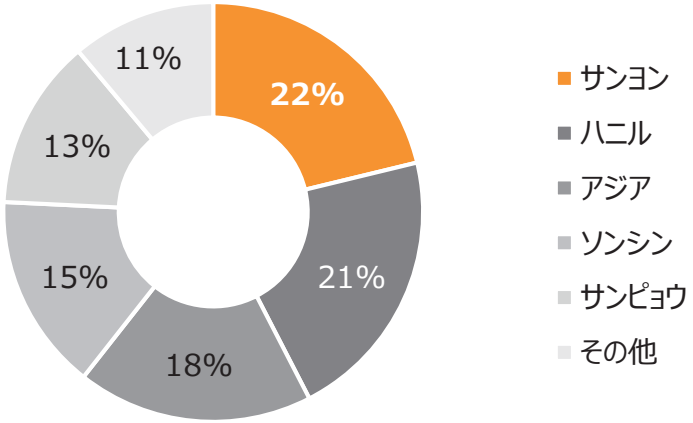
※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、当ファンドへの実質的な組入れを保証もしくは示唆するものではありません。
※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。
※ 過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。
出所： 会社資料等をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

投資対象銘柄のご紹介③
サンヨン・セメント（素材） SSANGYONGCEMENT INDUSTRIAL CO., LTD

株価の推移
（2013年9月末日～2018年9月末日）



韓国セメントメーカーの市場シェア
（2017年度）



投資のポイント

【企業概要】
- 韓国シェア1位のセメントメーカー、1962年に創業し年間1,500万トンの生産能力を保有
- 内陸地域だけではなく海岸沿いにも製造工場が位置しており、内需・外需どちらの市場も対応可能なビジネスモデルを構築

【同社の魅力】
1．業界再編M&Aが進む中、大手3社が業界をリード
2．セメントメーカー各社が需要の停滞で苦しむ中、コストの削減に集中して利益成長を成し遂げ、営業利益率は15%と業界首位

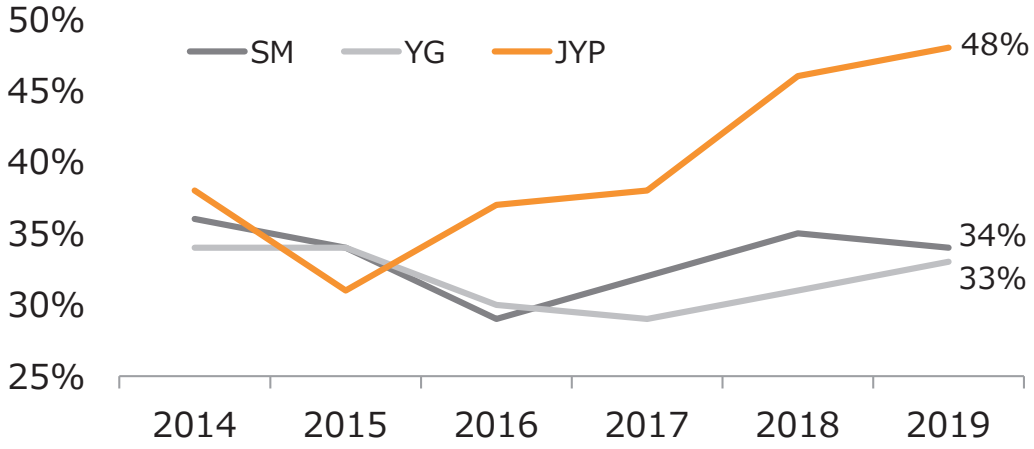
【北朝鮮との経済協力の恩恵】
- 北朝鮮では経済開放の初期から建設ブームが期待されるが、北朝鮮は深刻なセメント不足国家であり、重量物は近隣の工場からの輸入が必要となることから、経済協力の恩恵が期待

※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、当ファンドへの実質的な組入れを保証もしくは示唆するものではありません。
※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。
※ 過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。
出所： 会社資料等をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

投資対象銘柄のご紹介④
JYPエンターテインメント（コミュニケーション） JYP Entertainment Corp

株価の推移
（2013年9月末日～2018年9月末日）

韓国大手芸能事務所の売上総利益率推移
2014年～2019年（2018年以降は予想値）



投資のポイント

【企業概要】
- 売上高で国内第3位の音楽レーベル
- 主な事業はアーティストの発掘、育成、音楽制作を伴うエンターテイメント活動の管理
- 同社の海外戦略は、徹底的な現地化により差別化されている

【同社の魅力】
1．同社のメインアーティストであるTWICEは、デビューからわずか1年後に日本で大規模なコンサートを開催、海外の音楽市場でもファンが拡大中
2．TWICEは初期からアジア市場進出を意識して日本人を含む多国籍なメンバーで構成されており、海外売上高比率も高い水準を誇る
3．アーティスト育成・発掘による初期投資金額は費用として計上されるが、2019年には新しいアーティストがデビューする予定で、費用を回収し、更なる利益成長の機会が存在

※ 上記は当ファンドへの理解を深めていただくためのご参考資料であり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、当ファンドへの実質的な組入れを保証もしくは示唆するものではありません。
※ 記載された意見や予測などについては、資料作成時点での見解を示すものであり、今後予告なしに変更されることがあります。
※ 過去の実績等は将来の結果を保証、示唆するものではありません。
出所： 会社資料等をもとにスパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

モデルポートフォリオ（上位10銘柄）

組入上位10銘柄

モデルポートフォリオ

順位	銘柄名	業種	組入比率
1	ダゾン・ビズオン	情報技術	9.0%
2	メディトクス	ヘルスケア	7.0%
3	ヘマロ・フード・サービス	一般消費財	6.0%
4	GSリテール	生活必需品	5.8%
5	リノ工業	情報技術	5.6%
6	デンティウム	ヘルスケア	5.4%
7	フィラ・コリア	一般消費財	5.2%
8	エギョン産業	生活必需品	5.1%
9	サンヨン・セメント	素材	5.0%
10	JYPエンターテインメント	コミュニケーション	5.0%

KOSPI （韓国総合株価指数）

順位	銘柄名	業種	組入比率
1	サムスン電子	情報技術	19.7%
2	SKハイニックス	情報技術	3.5%
3	セルトリオン	ヘルスケア	2.5%
4	サムスン・バイオロジックス	ヘルスケア	2.4%
5	ヒュンダイ自動車	一般消費財	1.6%
6	LG科学	素材	1.6%
7	POSCO	素材	1.5%
8	サムスン物産	資本財・サービス	1.6%
9	NAVER	コミュニケーション	1.6%
10	SKテレコン	コミュニケーション	1.5%

指数と差別化されたリターンを目指します。

※　上記各比率はキャッシュを除く全ポートフォリオに対する比率です。
※　業種は、GICS（世界産業分類基準）による分類です。
※　当モデルポートフォリオは、2018年12月21日設定予定である当ファンドの運用に関するイメージをつかんでいただくための想定ポートフォリであり、
　　特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、当ファンドへの実質的な組入れを保証もしくは示唆するものではありません。
※　KOSPI（韓国総合株価指数）は当ファンドのベンチマークではございません。
※　当ファンドの運用開始後の状況については、適時開示資料でご確認下さい。
出所：　スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）（2018年9月末日現在）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

モデルポートフォリオのスナップショット

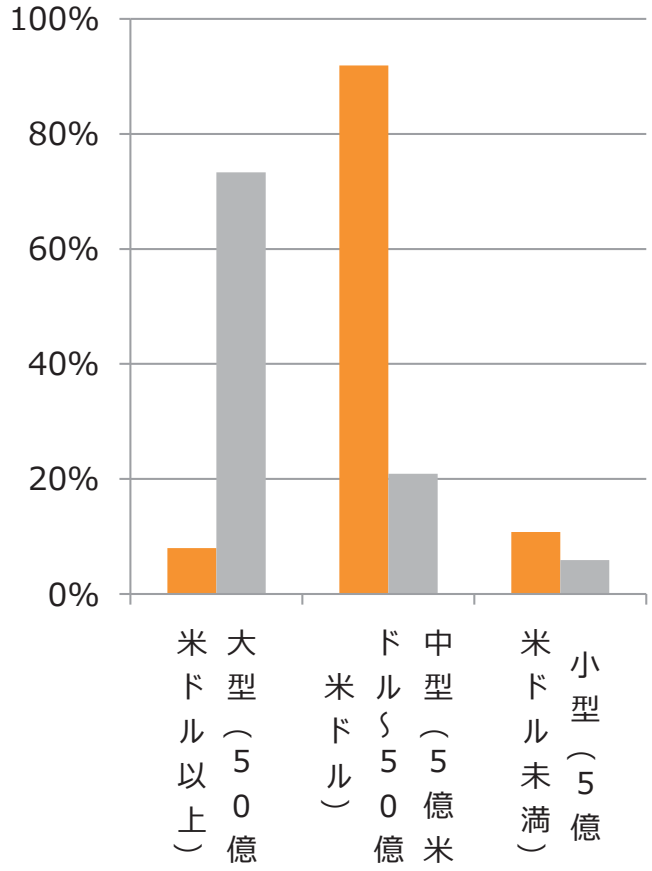
- KOSPI（韓国総合株価指数）と比較すると、時価総額別構成比は大型の比率が低く、中型・小型の比率が高くなっています。また、業種別構成比では韓国の代表的な産業である情報技術の比率が低く、生活必需品、ヘルスケア、一般消費財などの比率が高くなっています。

各種投資指標

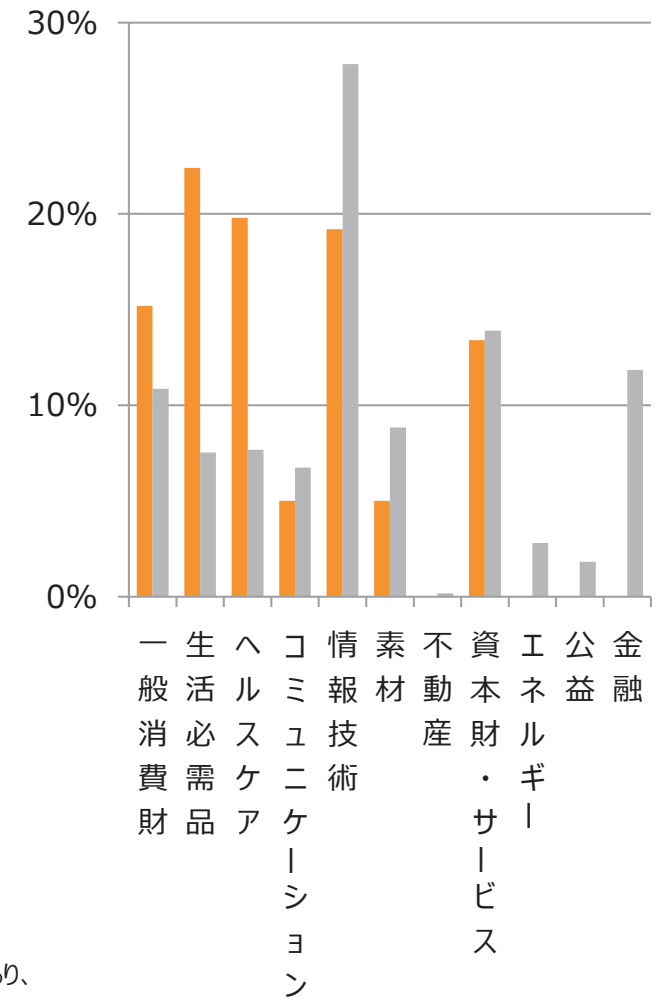
	モデル ポートフォリオ	KOSPI
PBR（株価純資産倍率）		
昨期実績	5.0倍	1.0倍
ROE（株主資本利益率）		
昨期実績	16.9%	8.6%
PER（株価収益率）		
昨期実績	27.2倍	11.3倍

■ ：モデルポートフォリオ
■ ：KOSPI （韓国総合株価指数）

時価総額別構成比



業種別構成比



※ 上記各比率はキャッシュを除く全ポートフォリオに対する比率です。
※ 業種は、GICS（世界産業分類基準）による分類です。
※ 当モデルポートフォリオは、2018年12月21日設定予定である当ファンドの運用に関するイメージをつかんでいただくための想定ポートフォリオであり、特定の有価証券等を推奨しているものではありません。また、当ファンドへの実質的な組入れを保証もしくは示唆するものではありません。
※ KOSPI（韓国総合株価指数）は当ファンドのベンチマークではございません。
※ 当ファンドの運用開始後の状況については、適時開示資料でご確認下さい。
出所： スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）（2018年9月末日現在）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

当ファンドの特色

1. 当ファンドは、マザーファンド受益証券を通じて、韓国の優良企業に投資します。

- ボトムアップ・リサーチによる個別銘柄調査に基づき、企業のビジネスの質や市場の成長性、経営に着目して、将来にわたるキャッシュフローから企業価値を推定し、この価値よりも株価が割安に放置されていると考えられる銘柄に選別して投資を行います。
- 参考指数はKOSPI（韓国総合株価指数）（円ベース）※とします。ただし、参考指数への追従を意図した運用は行いません。

※ 「KOSPI（韓国総合株価指数）（円ベース）」は、KOSPI（韓国ウォンベース）をもとに委託会社が円換算したものです。

2. 厳選投資します。

- ベンチマークは設けず、銘柄を厳選して投資します。（特化型）

※ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

3. 長期投資します。

- 原則として短期的な売買は行わず、長期保有することを基本とします。

※ 実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

当ファンドの投資対象

▶ 当ファンドは、韓国の構造的変化を捉え、将来の成長機会に対応できる優良な韓国企業に投資いたします。

—— 韓国の「優良企業」とは ——

①強固なビジネスモデル

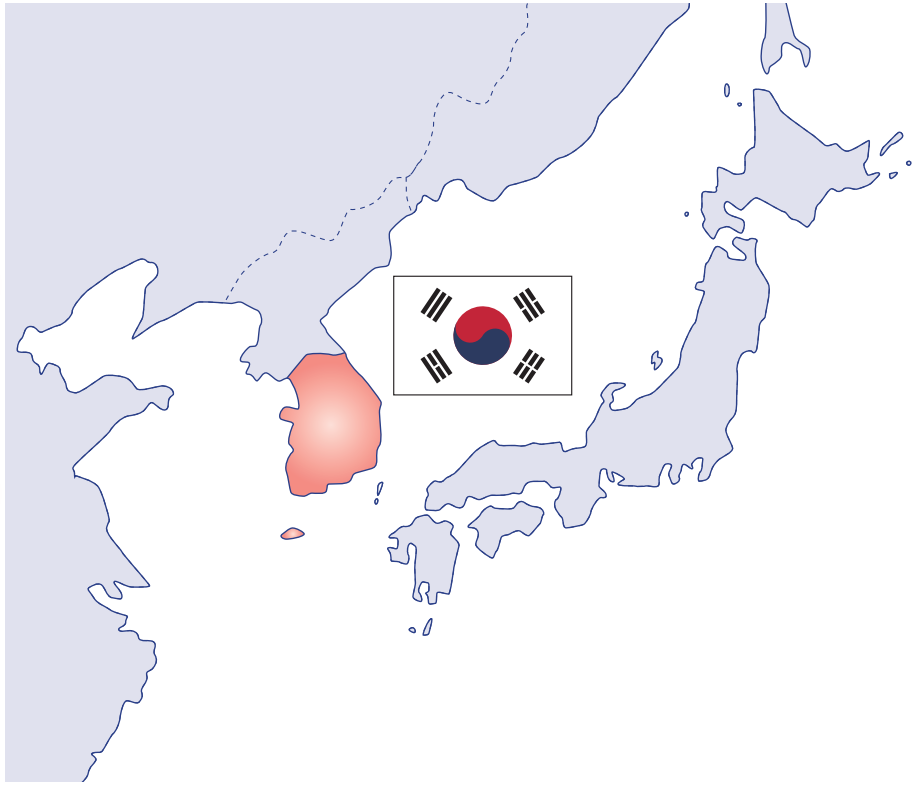
長期的、安定的なキャッシュフロー

②国内外市場での圧倒的な成長

需要の拡大と高度化

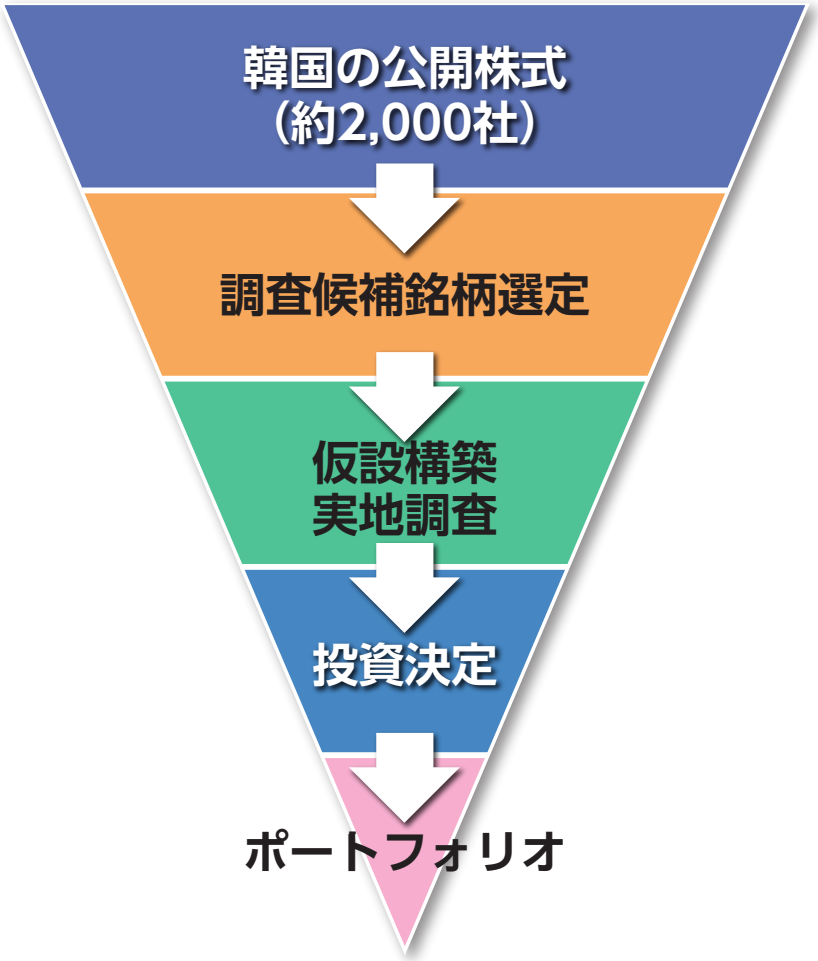
③品質の向上とブランド認知

韓国水準から世界水準へ



出所： スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

投資プロセス



①企業訪問や調査活動を通じて、投資仮説や投資アイデアを検討

投資仮説・投資アイデア、流動性を配慮し調査対象銘柄の絞り込み。企業訪問による調査。決算書類（有価証券報告書、決算短信等）、アニュアルレポート、プレスリリース、経営者の書物など、あらゆる関係書類・書物を徹底的に調査。

②3つの着眼点から企業の実態価値を計測

経営者との面談等を通じたボトムアップ・リサーチにより、3つの着眼点（企業収益の質、市場成長性、経営戦略）から、経営者の哲学や企業経営に関する考え方などを徹底的に調査。

③実態価値と市場価値（株価）の差、バリュー・ギャップを計測

過去の株主資本の成長の実績などから、将来の株主資本の積み上がりを予測し、株価水準を勘案し投資決定。

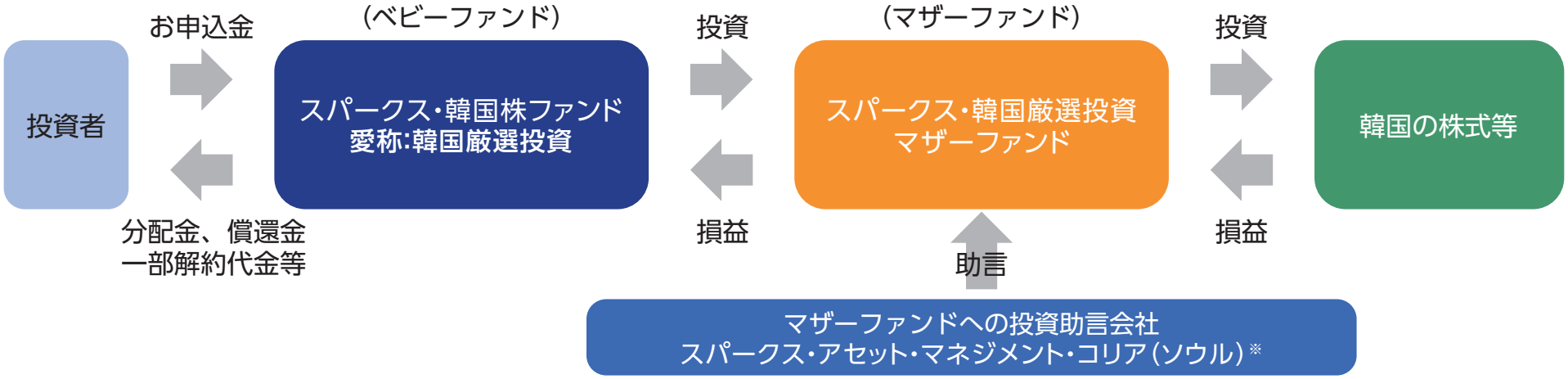
ファンドの資金動向や市況動向等によっては、前述のような運用ができない場合があります。

※　運用体制等の詳細につきましては、請求目論見書に掲載しております。
出所：　スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）作成（2018年9月末日現在）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

ファンドの仕組み

▶ 当ファンドは、ファミリーファンド方式※により、韓国の株式等へ実質的に投資を行います。
当ファンドが投資を行うマザーファンドについては、スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）の韓国株式運用チームの投資助言を受け、当社のファンド・マネージャーが投資判断いたします。

※ ファミリーファンド方式：投資者の皆さまからお預かりした資金（ベビーファンド）をマザーファンドに投資し、実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。



※ スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）は韓国ソウルに拠点を置くＳＰＡＲＸグループの一員であり、韓国でのボトムアップ・リサーチによる投資活動を強みとする会社です。
また、リスク管理およびプロセスにも重点を置いており、それらを独立した組織として運営しています。

出所： スパークス・アセット・マネジメント

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

参考ファンド※の運用実績

※参考ファンド：当ファンドの投資助言担当者が韓国国内で2017年7月以降に運用をしているポートフォリオです。
当ファンドの将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。

参考ファンドの運用実績

▸ 下表は当ファンドの投資助言担当者が韓国国内で2017年7月以降に運用をしているポートフォリオのリターンです。
当ファンドの将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。

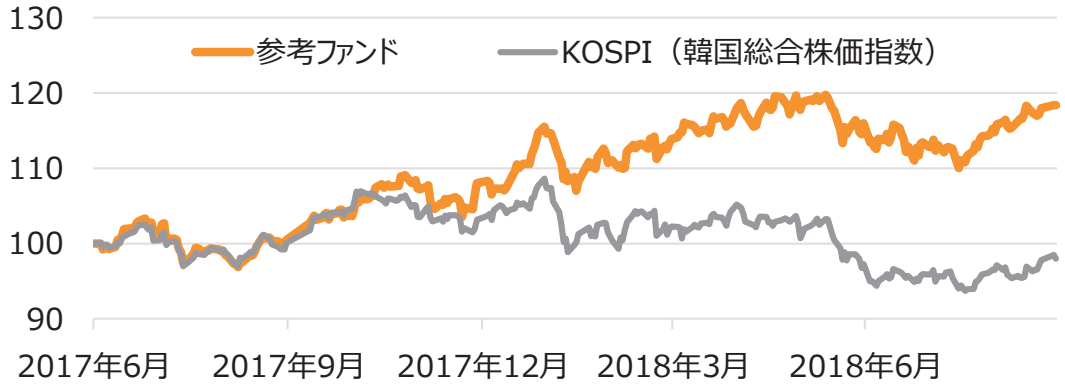
過去の運用成績

（2017年6月末から2018年9月末現在）

	参考ファンド	KOSPI（韓国総合株価指数）
1ヶ月	2.2%	0.9%
6ヶ月	3.9%	-4.2%
1年	17.7%	-2.2%
設定来	18.4%	-2.0%
年率リターン	26.2%	-
年率リスク	12.7%	11.7%

参考ファンドの基準価額の推移

（2017年6月末から2018年9月末現在）



（ご参考）韓国ウォン／円レートの推移

（2017年6月末から2018年9月末現在）

※ 基準価額およびKOSPI（韓国総合株価指数）は2017年6月末を100として指数化しています。
※ 年率リターンは計算期間におけるリターンを年率換算しています。年率リスクは計算期間における月次リターンの標準偏差です。
※ 基準価額は信託報酬控除前です。
※ KOSPI（韓国総合株価指数）は参考ファンドのベンチマークではありません。
※ 当ファンドの運用開始後の状況については、適時開示資料でご確認下さい。
出所： スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）（2018年9月末日現在）
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

スパークス・グループの概要

スパークス・グループ株式会社			
創業	1989年7月	代表取締役社長	阿部修平
資本金	85億円8200万円 （2018年3月末日現在）	運用資産残高	12,120億円※2 (2018年9月末速報値)
役職員数	176名※1		
一貫した投資哲学と運用プロセスを実践する独立系運用会社です。 スパークスは1989年の創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下ボトムアップ・リサーチを行っております。 スパークス・グループ株式会社はJASDAQ市場（銘柄コード：8739）に2001年12月に運用会社として、初めて上場致しました。			

阿部修平　略歴

スパークス・グループ株式会社　代表取締役社長、グループＣＩＯ

スパークス・アセット・マネジメント株式会社　代表取締役社長　CEO

1954年　札幌生まれ。

1978年　上智大学経済学部卒業。

1980年　バブソンカレッジでＭＢＡ取得。帰国後、株式会社野村総合研究所入社。企業調査アナリストとして日本株の個別企業調査業務に従事。

1982年　ノムラ・セキュリティーズ・インターナショナル（ニューヨーク）に出向し、米国機関投資家向けの日本株のセールス業務に従事。

1985年　アベ・キャピタル・リサーチを設立（ニューヨーク）。ジョージ・ソロス氏のクウォンタム・ファンド等、欧米資金による日本株の投資運用・助言業務を行うとともに、欧米の個人資産家の資産運用を行う。

1989年　帰国後、スパークス投資顧問(現スパークス・グループ株式会社)を設立、代表取締役社長に就任（現任）。

2005年　ハーバード大学ビジネススクールでAMP修了。

2012年　6月より株式会社国際協力銀行（JBIC）リスク・アドバイザリー委員会委員を務める。

※1　役職員は2018年9月末日現在です。関係会社において兼職している役職員数の調整後の数値です。

※2　スパークス・アセット・マネジメント、スパークス・アジア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド（香港）、スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）およびスパークス・アセット・トラスト＆マネジメントの運用資産残高の総額です。

本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

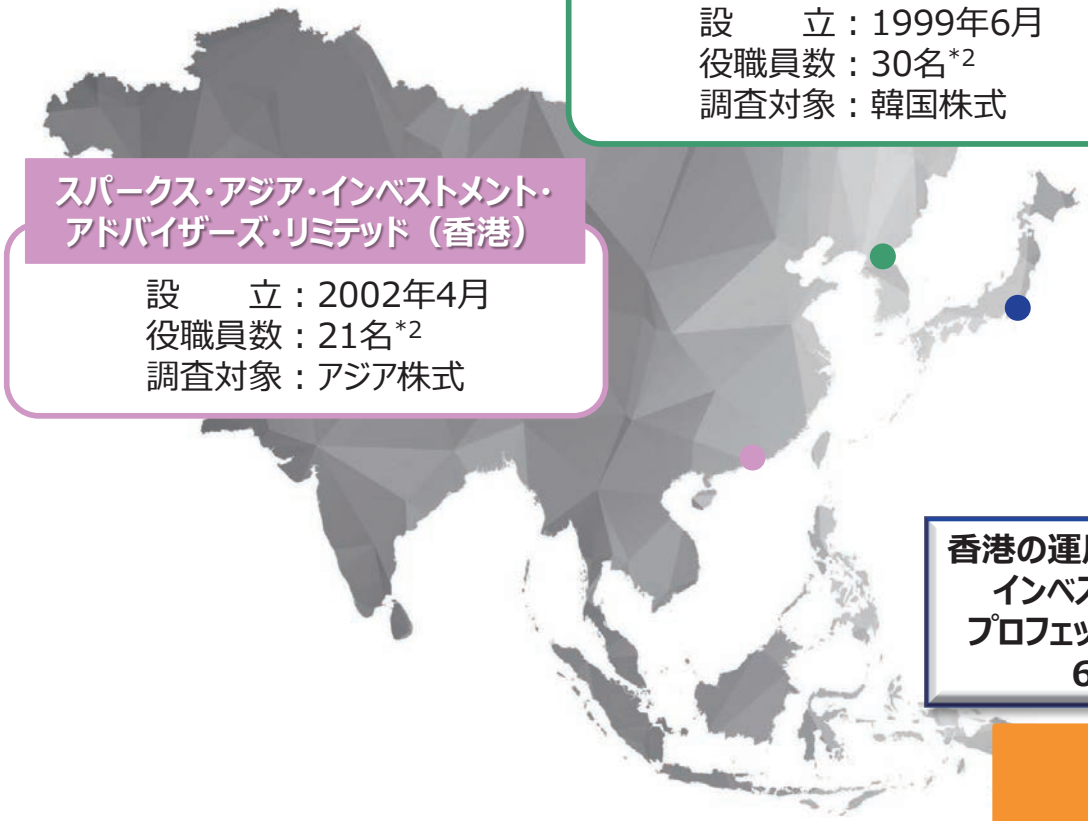
日本・アジア株式で長期の運用実績を誇るスパークス

- スパークス・グループ*1は日本株式においては1989年の創業来、アジア株式においては2005年から運用実績があります。
- 日本・香港・韓国の運用会社が一体となり、日本を含むアジア株式の調査、投資活動を行っています。

（当ファンドの投資助言会社）

スパークス・アセット・マネジメント・コリア（ソウル）

設　　立：1999年6月
役職員数：30名*2
調査対象：韓国株式



スパークス・アジア・インベストメント・アドバイザーズ・リミテッド（香港）

設　　立：2002年4月
役職員数：21名*2
調査対象：アジア株式

（当ファンドの委託会社）

スパークス・アセット・マネジメント・株式会社（東京）

設　　立：2006年4月
資 本 金：25億円*3
役職員数：110名*2
調査対象：日本株式

香港の運用調査拠点	日本の運用調査拠点	韓国の運用調査拠点
インベストメントプロフェッショナル*4	インベストメントプロフェッショナル*4	インベストメントプロフェッショナル*4
6名	19名	11名

共通の運用調査体制のもと、魅力的な投資機会の獲得を目指します。

*1　スパークス・グループに関する説明は、P23をご確認下さい。
*2　役職員は2018年9月末日現在です。
*3　2018年3月末日現在。
*4　ファンドマネージャー、アナリストを指します。
本資料の最後に付記しております免責事項を必ずお読み下さい。

主な投資リスク／その他の留意点

主な投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、主としてマザーファンド受益証券への投資を通じて、海外の株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産に投資しますので為替の変動により、基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。
なお、ファンドが有する主なリスクは、以下の通りです。

価格変動リスク
当ファンドは、実質的に海外の株式などを主要な投資対象としますので、当ファンドへの投資には、株式投資にかかる価格変動等の様々なリスクが伴うことになります。当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

カントリーリスク
一般的に海外の株式などに投資する場合、投資対象国・地域の政治、経済、社会情勢の変化等により金融・証券市場が混乱して株式などの価格が大きく変動する可能性があり、基準価額が大きく下落する要因となります。また、新興国市場への投資は先進国への投資と比較して価格変動、流動性、為替変動、政治要因等のリスクが高いと考えられています。また、情報の開示などの基準が先進国とは異なることから投資判断に際して正確な情報を十分に確保できない場合があります。国有化、資産の収用、あるいは通貨の回金の制限等により、かかる国への投資はリスクを増大させることがあり、その結果、重大な損失が生じる場合があります。

為替変動リスク
当ファンドは、原則として為替ヘッジを行いませんので、投資対象国の通貨と日本円との間の為替変動の影響を受けます。外国為替相場の変動により投資を行う投資対象国の通貨建て資産の価格が変動し、これにより基準価額が変動し、損失を生じる場合があります。

集中投資のリスク
当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

信用リスク
組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。なお、株式等の値動きに連動する債券については、債券の発行者に起因するリスクのほか、対象とする企業の株価の変動の影響を受けますので、対象とする企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合には、当該債券の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

特化型運用にかかるリスク
当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

その他の留意事項

●システムリスク・市場リスクなどに関する事項
証券市場および外国為替市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に換金等ができないこともあります。
また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

●法令・税制・会計方針などの変更に関する事項
当ファンドに適用される法令・税制・会計方針などは、今後変更される場合があります。また、投資対象とする地域の中では、金融市場や証券市場にかかる法令・制度などが先進国と比較して未整備であったり先進国とは異なったりすること、法令・制度・税制・決済ルールに変更が加えられる可能性が先進国よりも高いと考えられること、市場取引の仲介業者等の固有の事情から、投資行動に予期せぬ制約を受けたり、様々な要因から投資成果への悪影響や損失を被ったりする可能性があります。

その他の留意点

●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

● 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。
収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
収益分配の支払いは、信託財産から行われます。従って純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

リスクの管理体制

委託会社では、投資リスクを適切に管理するため、運用部門ではファンドの特性に沿ったリスク範囲内で運用を行うよう留意しています。
また、運用部門から独立した管理担当部門によりモニタリング等のリスク管理を行っています。

※基準価額の変動要因（投資リスク）は、上記に限定されるものではありません。上記は当ファンドの投資に係る様々なリスク、留意事項のうち、主なリスク、留意事項等について説明したものであり、全てのリスク、留意事項等を網羅したものではありません。

お申込みの際は最新の投資信託説明書（交付目論見書）等を必ずご覧下さい。

お申込みメモ／当ファンドに係る費用等／課税関係他

お申込みメモ

信託期間		無期限（2018年12月21日設定）
決算日および収益分配		年1回決算（毎年12月18日：休業日の場合は翌営業日） 年1回の決算時に収益分配方針に基づいて収益分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないこともあります。 ※　販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
購入時	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 （当初申込期間中は1口＝1円）
購入時	購入単位	販売会社が別に定める単位 ※　詳しくは販売会社までお問い合わせください。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金時	換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
換金制限		信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し		委託会社は、金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金申込受付を取り消すことができます。

課税関係
課税上は株式投資信託として取扱われます。
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。
＊上記は2018年9月末日現在のものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。
税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドに係る費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間中は1口＝1円）に3.24％（税抜3.0％）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。 ※　詳しくは販売会社までお問い合わせください。
購入時	信託財産留保額	該当事項はありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用（信託報酬）	日々の信託財産の純資産総額に対して年率1.7712％（税抜1.64％）を乗じて得た額とします。 [委託会社 年率0.972%(税抜0.90%)、販売会社 年率0.756%(税抜0.70%)、受託会社 年率0.0432%(税抜0.04%)] 運用管理費用（信託報酬）は、ファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。 ※　委託会社が受け取る信託報酬の配分には、当ファンドの主要対象であるマザーファンドの運用に関する投資助言を受けている投資助言会社への報酬が含まれます。
毎日	監査費用 印刷費用	監査費用、印刷費用などの諸費用は、ファンドの純資産総額に対して年率0.108％（税抜0.10％）を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期間の最初の6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。
随時	その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用、外貨建資産の保管費用、マザーファンドの換金に伴う信託財産留保額等は、その都度信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※当該手数料等の合計額については、ファンドの購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。
※お申込の際には投資信託説明書（交付目論見書）をご確認下さい。

委託会社、その他関係法人
委託会社　スパークス・アセット・マネジメント株式会社
受託会社　三井住友信託銀行株式会社 （再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 ）
販売会社　東海東京証券株式会社

＜指数に関して＞
MSCI韓国インデックスおよびMSCIワールド・インデックスは、MSCI Inc.が公表しているインデックスで、当指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に属しており、また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下、当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。
■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆さまに帰属します。
■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。
■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。
■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。
■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。
■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。
■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。

表紙画像の撮影場所：ロッテワールドタワー（韓国・ソウル市）

お問合せ先　スパークス・アセット・マネジメント株式会社
【ホームページ】　http://www.sparx.co.jp/
【電話番号】 03-6711-9200（受付時間：営業日の9：00～17：00）

© 2018 SPARX Asset Management Co., Ltd